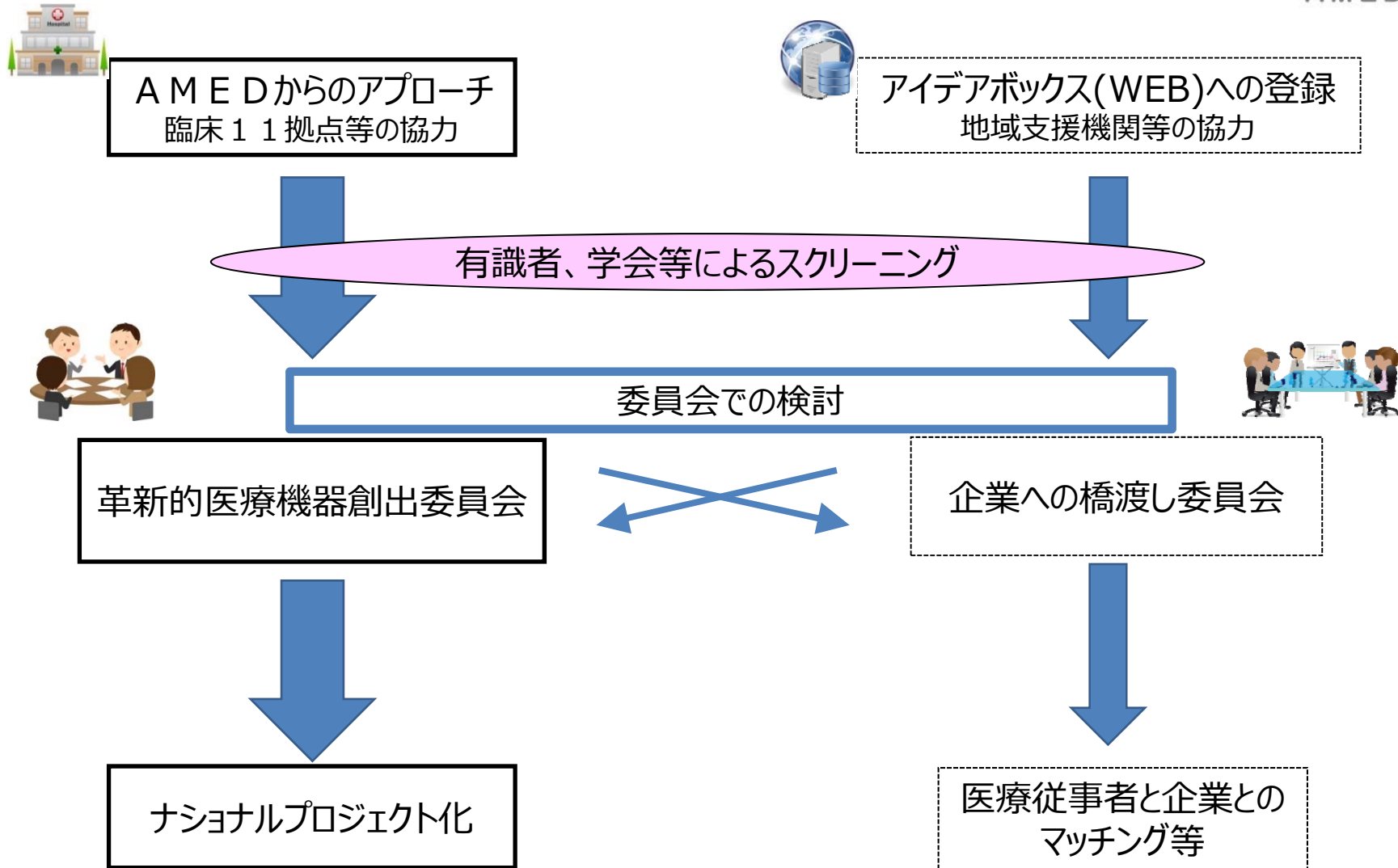




臨床ニーズ収集の取組

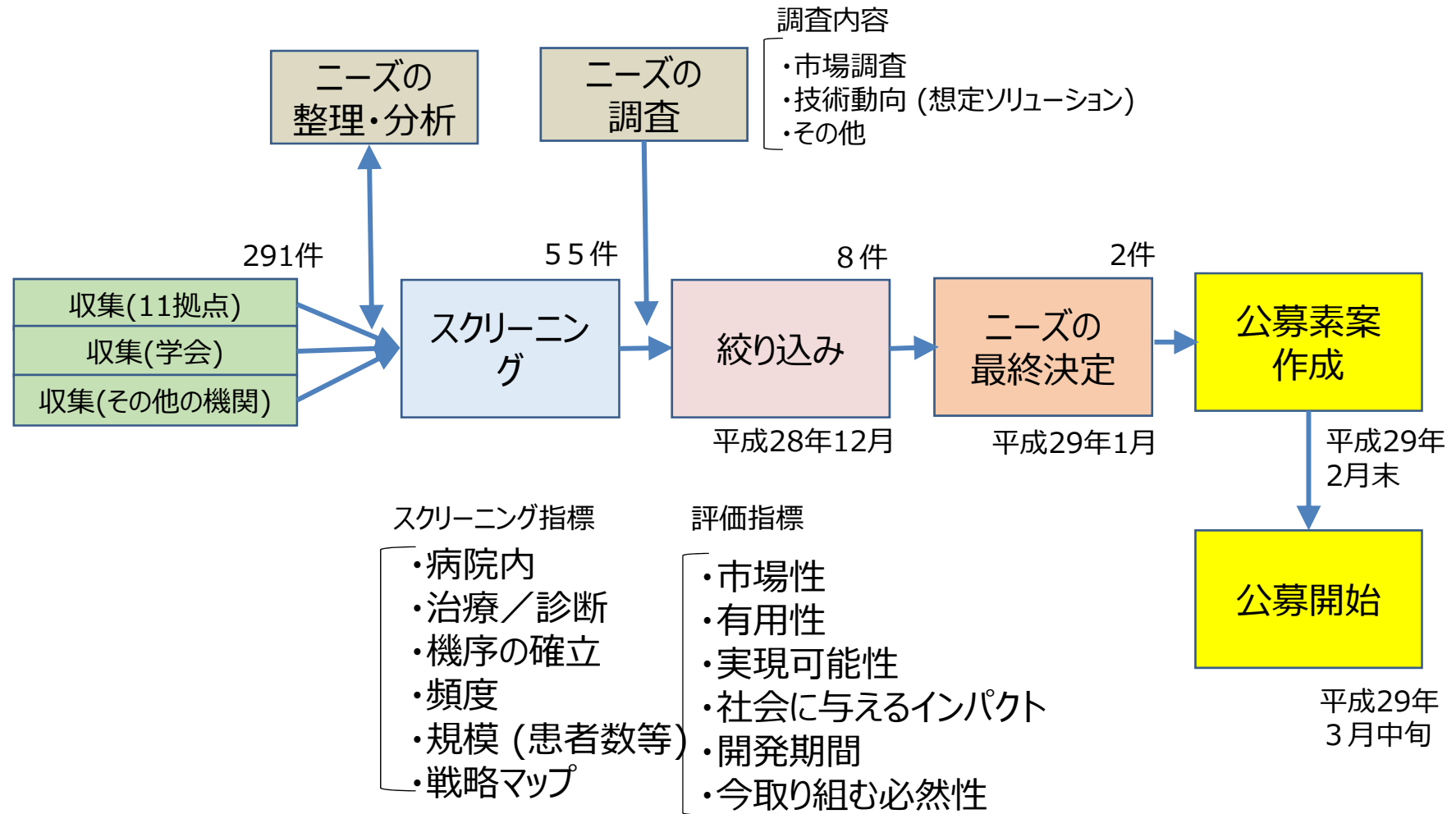
平成29年3月
日本医療研究開発機構

ニーズ収集から活用までのおおまかな流れ



革新的医療機器創出に関する 臨床ニーズ収集のプロセス

(平成28年度実績)



取組実績



➤ 平成28年7月～11月

11拠点(国産医療機器創出促進基盤整備事業)^{※1}、その他医療機関^{※2}、学会^{※3}を対象として、アンケートを中心に291件のニーズをヒアリング。

※1 東北大学、東京女子医科大学、浜松医科大学、大阪大学、国立循環器病センター、岡山大学、鳥取大学、大分大学

※2 北海道大学、国立がん研究センター、千葉大学、山梨大学、奈良県立医科大学、福井大学、高知大学、福岡大学、産業医科大学、熊本大学、宮崎大学

※3 日本脳神経外科学会、日本整形外科学会、日本内視鏡外科学会、日本コンピューター外科学会

➤ 平成28年12月～平成29年2月

合計で3回の臨床ニーズ抽出委員会を開催し、ニーズの妥当性、市場性、実現可能性等の評価を実施。

このうち2件のニーズについて、平成29年度のナショナルプロジェクト公募課題(未来医療を実現する医療機器・システム開発事業)とする予定。

最終評価対象となったニーズの例

(平成28年度)



No.	ニーズの内容
1※	関心領域を詳細かつ低侵襲に診断することや、術後QOLに影響を及ぼす神経や血管の走行の把握により、低侵襲かつ精度の高い治療を実現すること
2	心不全・不整脈患者にとって、手術時間の短縮や侵襲抑制によるQOL向上をもたらすために、原因の早期特定と治療時の標的部位探索を容易にすること
3	隠れている臓器や神経走行、血管走行を術中に可視化し、術中の判断に確信を持つこと
4※	診断が確定するまでの時間を短縮し、より早く治療を開始すること
5	関節、脊椎等整形外科領域において、骨と軟骨や靭帯等の軟組織を一度の検査で同時に撮影すること
6	術中、術後の病理診断と術前の画像診断とで位置情報や浸潤範囲などの整合性をはかること
7	自然な体勢、症状が出ている体勢で診断すること
8	血管の走行を正確に把握して最も効果が望める治療計画を検討すること

※ニーズ抽出委員会において、公募課題として選定されたニーズ